

平成21年7月期 決算説明資料

SANNO

株式会社 山王

～貴金属表面処理加工分野のリーディングカンパニー～

平成21年9月29日

▶ 決算概要と見通し

- 平成21年7月期 業績
- 平成22年7月期 業績見通し

▶ 成長戦略と事業の方向性

▶ ご参考(会社概要等)

平成21年7月期 決算ハイライト

▶ 売上高： 下期復調し、修正計画比4%強増の68億円

▶ 営業利益・当期利益： 損失だが修正計画比上回る

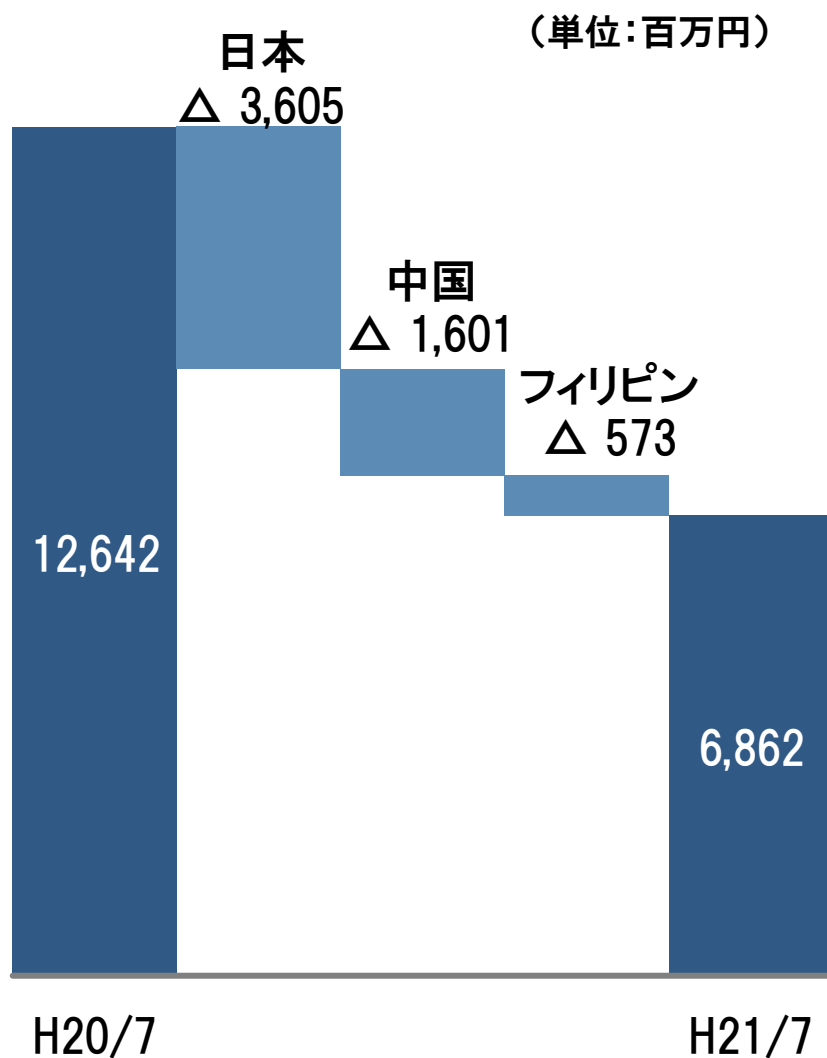
(単位:百万円)

	H20/7		H21/7				
		構成比(%)		構成比(%)	前期比(%)	修正計画 (3月発表)	修正 計画比
売上高	12,642	100.0	6,862	100.0	△45.7	6,548	+314
営業利益	731	5.8	△1,432	—	—	△1,608	+176
経常利益	679	5.4	△1,317	—	—	△1,534	+217
当期 純利益	537	4.3	△2,494	—	—	△2,695	+201

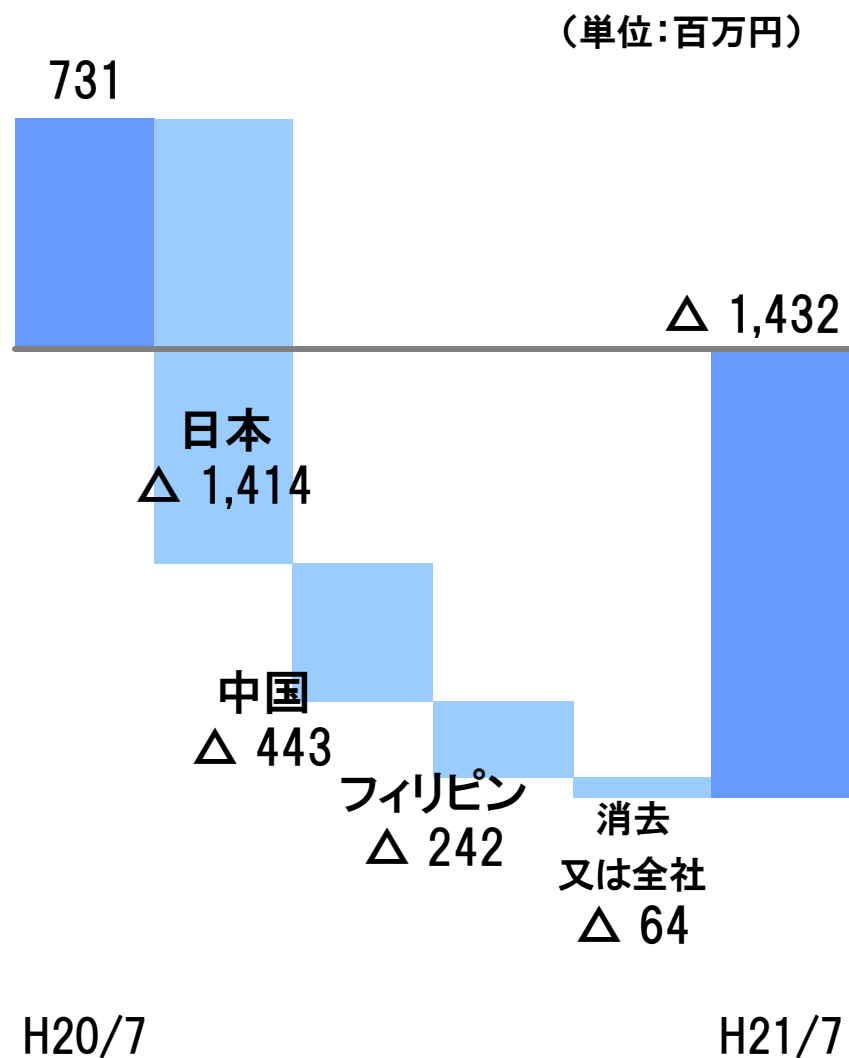
減損損失、繰延税金資産取崩、
国内FFC事業撤退損など

国内での需要減・単価下落が大きく影響

売上

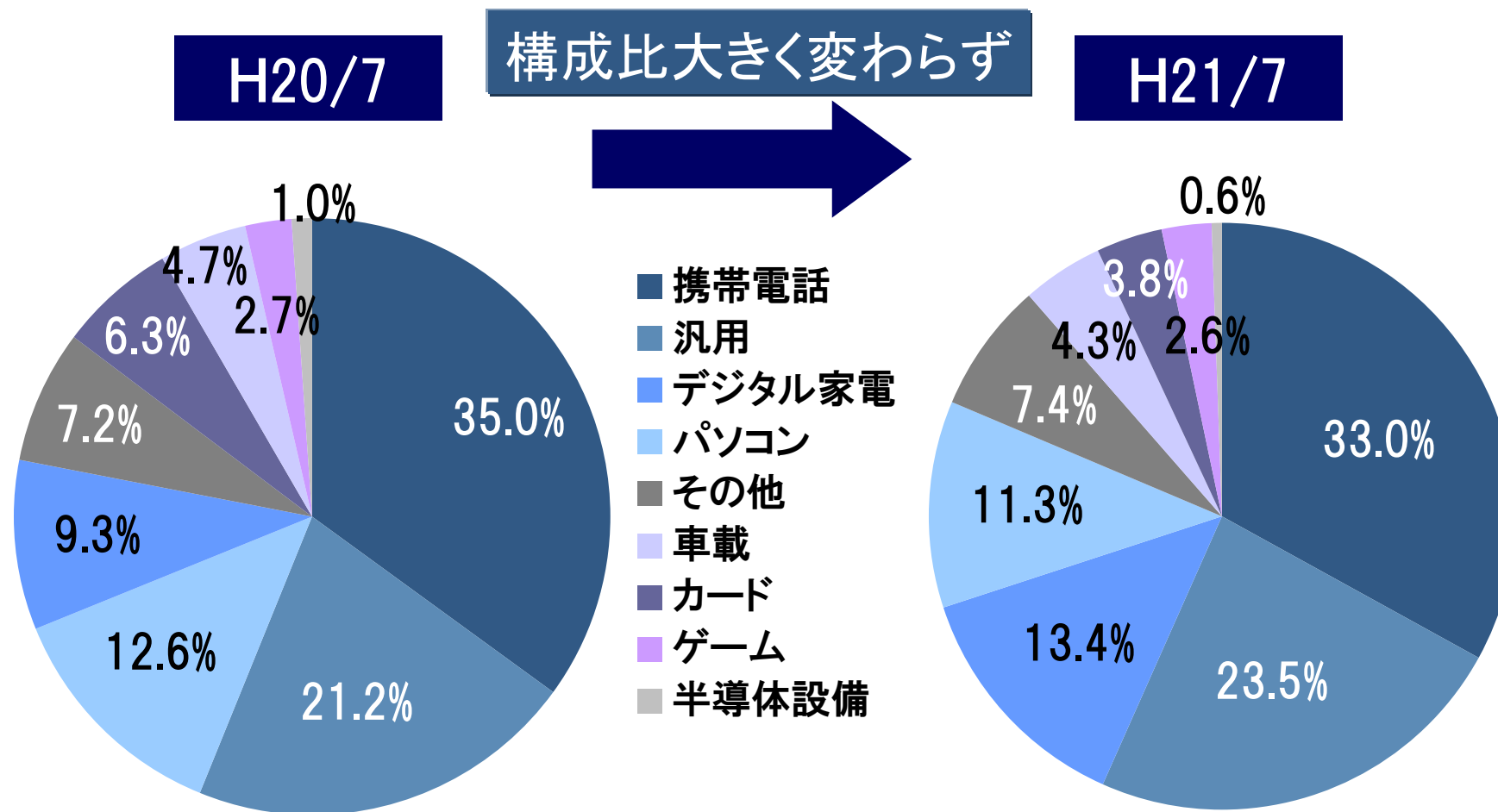


営業利益



国内市場全体の需要が縮小した

▶ 国内用途別売上構成の変化(ご参考)



事業別売上高

▶ 構成比に大きな変化はなし

▶ 顧客囲い込み(精密プレス⇒表面処理)も需要不足に直面

(単位:百万円)

	H20/7		H21/7			
		構成比(%)		構成比(%)	増減額	前期比(%)
表面処理加工	11,641	92.1	6,277	91.5	△5,364	△46.1
精密プレス加工	1,000	7.9	585	8.5	△415	△41.5
合計	12,642	100.0	6,862	100.0	△5,780	△45.7

平成21年7月期 下半期の状況

▶ 4Qに電子部品需要が復調 ⇒修正計画比(+4.7%)

国内

20年8月～21年7月

- ▶ 主要顧客からの電子部品需要は底打つ
 - ▶ 売上:減収だが4Qから復調傾向
 - ▶ 顧客の当社めっき技術への高い評価は維持
 - ▶ 業績回復基調で人件費率が微増

海外

中国

20年7月～21年6月

フィリピン

20年6月～21年5月

- ▶ 世界不況の影響は軽微
 - ▶ フィリピンは特需の影響で増収、中国は景気回復もあり堅調

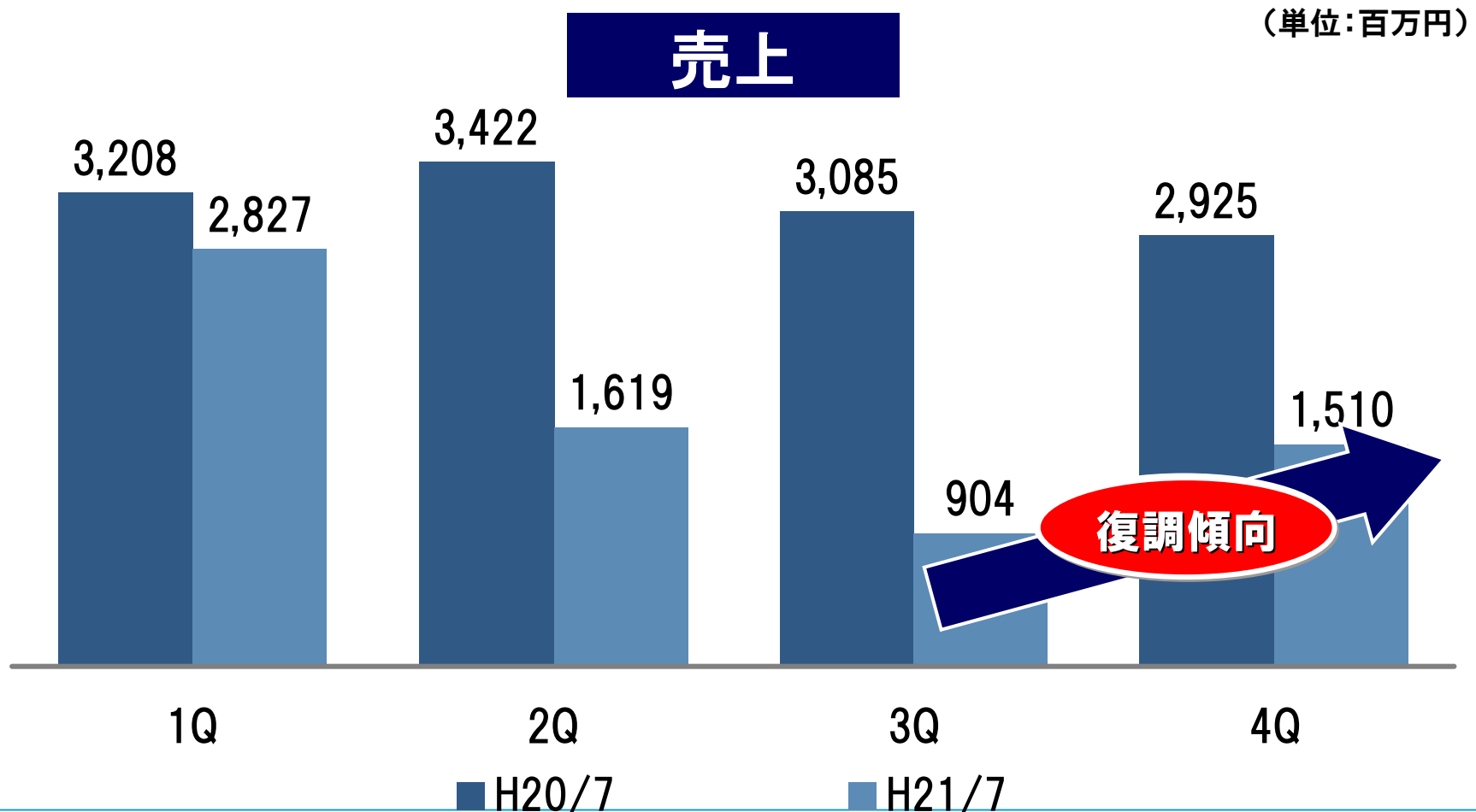
▶ 材料高はピークアウトし下期への影響は軽微にとどまる

- ▶ 原価(金)市況は落ち着き、使用量は効率化

復調傾向にある事業(3Qが業績の底)

▶ 減退した国内めっき需要は4Qに復調

▶ 大口顧客向け携帯電話関連などが復活



収益回復度合いは早まる

▶ 売上原価率は修正計画比減少(△3.1%*)

▶ 増収、金など材料価格落ち着く+「原価低減活動」の継続

▶ 販売管理費率も修正計画比減少(△0.6%*)

(単位:百万円)

	H20/7		H21/7				
		構成比(%)		構成比(%)	前期比(%)	修正計画	修正計画比
売上高	12,642	100.0	6,862	100.0	△45.7	6,548	+314
売上原価	10,154	80.3	6,669	97.1	△34.4	6,566	△3.1%*
売上総利益	2,488	19.7	193	2.8	△92.3	△18	+211
販管費	1,756	13.9	1,625	23.6	△7.5	1,590	△0.6%*
営業利益	731	5.8	△1,432	—	—	△1,608	+176

* 対売上高比率

バランス・シートの状況

▶ 自己資本比率は62.3%(平成21年7月末現在)

▶ 純資産額約95億円(同上)

(単位:百万円)

	H20/7 末	構成比 (%)	H21/7 末	構成比 (%)	増減額
株主資本	11,993	96.2	9,439	99.8	△2,554
資本金・ 資本剰余金	1,833	14.7	1,833	19.4	0
利益剰余金	10,160	81.5	7,607	80.4	△2,553
評価換算価 額	469	3.8	14	0.2	△455
純資産合計	12,462	100.0	9,454	100.0	△3,008
自己資本 比	—	68.2	—	62.3	—

キャッシュ・フローの状況

▶ 現預金残高は、期末で約47億円

▶ 国内の設備更新・増強投資等のためファイナンスを実施

(単位:百万円)

	H20/7	H21/7	増減額
現金・現金同等物 期首残高	4,192	3,868	△324
営業活動キャッシュ・フロー	1,505	1,438	△67
投資活動キャッシュ・フロー	△923	△853	+70
フリー・キャッシュ・フロー	582	585	+3
財務活動キャッシュ・フロー	△644	338	+982
現金・現金同等物 期末残高	3,868	4,732	+864

- ▶ 決算概要と見通し
 - 平成21年7月期 業績
 - 平成22年7月期 業績見通し
- ▶ 成長戦略と事業の方向性
- ▶ ご参考(会社概要等)

足元の事業環境の認識

国内と海外双方で明るい見通し

国内

既存電子部品の需要は
回復の兆し

- ・ **携帯電話を中心に**新規案件が復活
- ・ **大口主要顧客**からの引き合いが増加

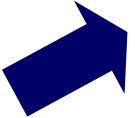
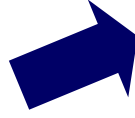
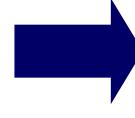

海外

景気回復でビジネスは
順調に回復

- ・ **中国**: 内需向け案件増加、
中長期安定成長が確実
- ・ **フィリピン**: 特需解消の影響あるも案件引き合い多く、
再び増収傾向へ

最近の事業動向(用途別・国内)

▶ 総括コメント

用途	状況	取引内容の具体例
携帯電話		大手A社向けスマートフォン需要が拡大
汎用		薄型テレビ向けは 単価下落も販売台数増加で復調へ
デジタル 家電		デジタルカメラ・ビデオ停滞の影響を 若干受ける
パソコン		需要復調傾向だが 単価下落の影響を受ける

平成22年7月期通期へ向けた戦術と施策

1. 既存顧客からの受注・引き合い案件を逃さない

- ▶ 復調傾向にあるビジネスチャンス逃さない

2. 中国で生産能力・技術向上の為の生産工程強化

- ▶ 想定される需要増に中長期的な視野から積極的に対応

⇒ 技術幹部・スタッフ派遣などで稼働率・生産スピード向上へ

3. 懸念される原材料高騰に十全に対応

- ▶ 原価低減活動は、継続実施(材料使用量減少＋再利用促進)

4. 固定費削減一辺倒にならない

- ▶ 業務効率化は必要だが、従業員の士気を高める工夫は必要

平成22年7月期通期見通し

▶ 売上高：国内復調で増収基調が加速(+16.6%)

▶ 増収効果+コスト管理強化で営業赤字幅はさらに縮小

▶ 特別損益は想定せず

(単位:百万円)

	H21/7・実績		H22/7・計画			
		構成比 (%)		構成比 (%)	前期比 (%)	差異
売上高	6,862	100.0	8,000	100.0	16.6	+1,138
営業利益	△1,432	—	△240	—	—	+1,192
経常利益	△1,317	—	△200	—	—	+1,117
当期純利益	△2,494	—	△200	—	—	+2,294

平成22年7月期 売上高見通し詳細

▶ 国内復調。海外はフィリピン特需の反動もあり横ばいを想定

地域別売上高	H21/7・実績		H22/7・計画（単位：百万円）			
		構成比(%)		構成比(%)	増減額	前年同期比(%)
国内	4,403	64.1	5,500	68.7	+1,097	+24.9
中国	1,340	19.5	1,600	20.0	+260	+19.4
フィリピン	1,119	16.3	900	11.2	△219	△19.6

▶ 精密プレス加工は単価下落を見込む

事業別売上高	H21/7・実績		H22/7・計画（単位：百万円）			
		構成比(%)		構成比(%)	増減額	前年同期比(%)
表面処理加工	6,277	91.5	7,480	93.5	+1,203	+19.1
精密プレス加工	585	8.5	520	6.5	△65	△11.2

設備投資・減価償却費・研究開発費計画

▶ 設備投資額 国内での設備更新・増強投資が中心

▶ 国内工場のライン更新・能力増強投資 + 中国現法工程改善投資

▶ 前期ファイナンス調達分約3億円を投入予定

▶ 研究開発費 製品・工程改善への投資を継続

▶ 「スポットめっき」など新プロセス技術開発を引き続き予定

(単位:百万円)

	H21/7・実績	H22/7・計画	差異	前期比
設備投資額	489	890	+401	+82%
減価償却費	1,110	960	△150	△13.6%
研究開発費	191	205	+14	+7.3%

配当金：業績復調で平成22年7月期は増額予定

▶ 平成21年7月期：75円

▶ 平成22年7月期：業況復調で通期100円へ増配へ

(単位：円)

	H21/7実績	H22/7計画
通 期	75	100
中 間	75	50
期 末	0	50
配 当 性 向	—%	—%

- ▶ 決算概要と見通し
 - 平成21年7月期 業績
 - 平成22年7月期 見通し
- ▶ 成長戦略と事業の方向性
- ▶ ご参考(会社概要等)

基本戦略＝増収・成長を最優先

▶ 外注市場復活の兆しあり、事業拡大へ営業強化を推進

事業の拡大

営業戦略

- ・国内めっき市場でのシェア・アップをめざす
- ・既存コネクタメーカー150社との取引深耕

海外戦略

- ・受注拡大へ本社で海外営業強化を推進
- ・中長期的な円高基調を踏まえた生産拠点の移転

+

業務提携による業務補完

- ・海外でのプレス加工体制の整備など競争力強化へメニュー整備

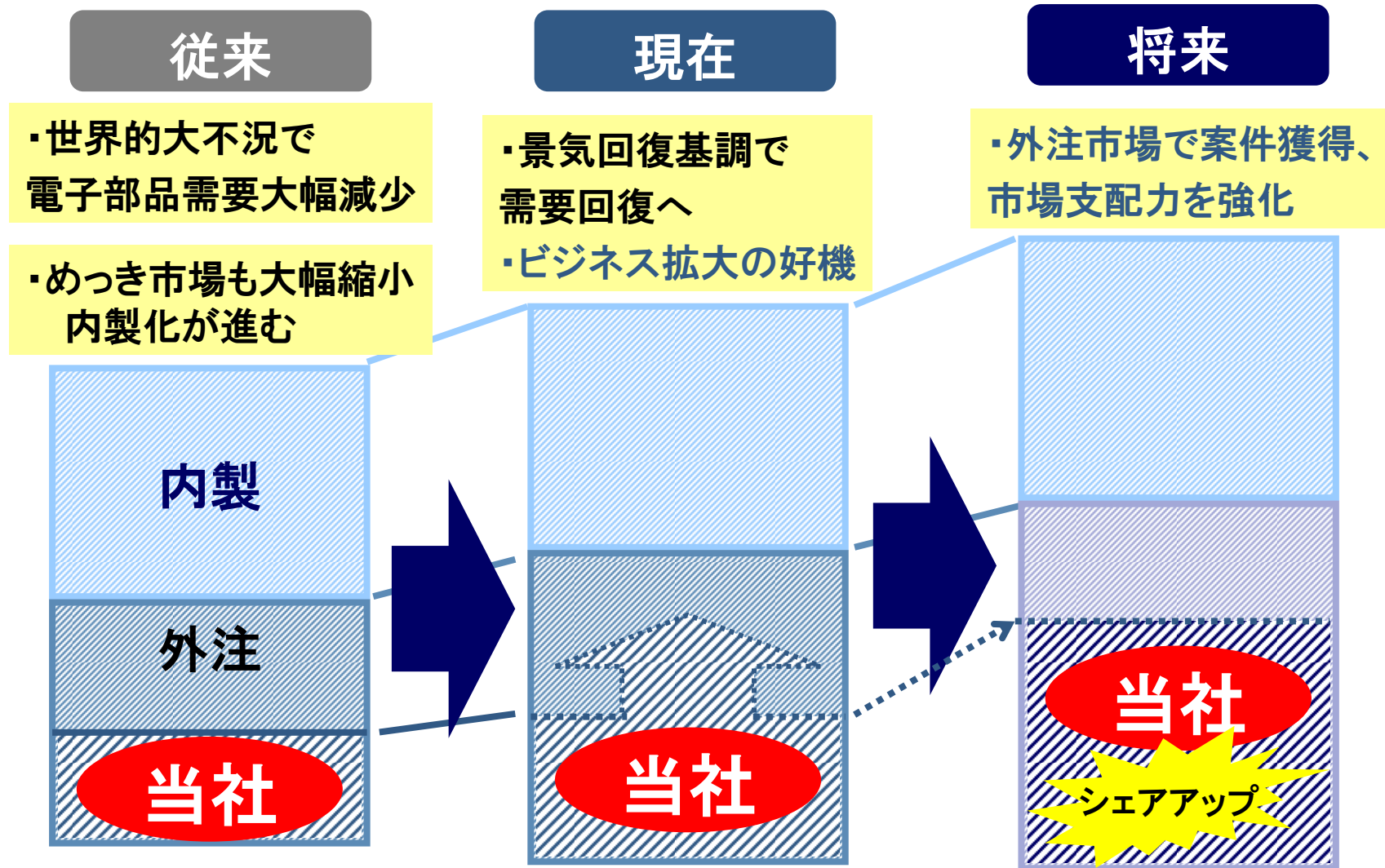
+

内部体制(企業体質)強化

技術改良の推進、生産の効率化(原価低減活動)、管理部門の効率化

事業拡大イメージ： めっきは「山王」

▶ めっき市場で外注市場復活で案件獲得・シェアアップ



事業・顧客基盤拡大のための営業戦略

▶ コネクタメーカー150社との取引深耕＋顧客層の拡大

技術セクションと連携した顧客サービス・営業活動の充実

- 顧客囲い込み(プレス・めっき一貫加工体制の強化)
 - ・ ⇒ 前提としての金型設計能力の強化
- 既存主要顧客に囚われない販売ルートの開拓



中長期構想

海外市場での取引先開拓へアプローチを強化

本社で海外営業を統括

中国を中心とした内需の掘り起こし

国内は付加価値高めるマザー工場、生産の主力は海外へ

海外事業：生産性向上⇒量的拡大へ



プロセス技術開発の最新状況

▶ 「高密度・高精度加工技術」の開発は具体的な段階に

- ▶ 電子部品の高機能化・小型化への対応
- ▶ ニッケルバリアの進化(第2世代開発)は生産開始へ
⇒ 多様なニーズに応えるために各種パターンを構築

▶ 「製造プロセス」の変化促進に成果が出始める

- ▶ 原材料使用量がさらに減少する工法(スポットめっき)の開発
⇒ 恒久的な材料価格(金など)高騰・省資源化対策
- ▶ 「製造プロセス」改善で取組中案件:十数件(21年8月末現在)
⇒ バリア、スポット、金皮膜の改質など

環境対策への取組み

▶ 土壌汚染・汚水処理等による事業リスクを最小限に

+

▶ 社会および当社の持続的な成長のために

「持続的な
社会的存在」
山王

上場企業として社会的存在を意識した活動

エネルギー効率化、リサイクルが最優先課題

(例)使用水道の約80%をリサイクル

地域の環境ボランティア活動に積極的に参加

「表面処理加工
メーカー」
山王

事業に直接関わる環境保全

事業機会の損失を最小限に

▶ご参考(会社概要その他)

株式会社山王(サンノー)

表面処理加工＋精密プレス加工

事業内容 : 電子部品を対象とした貴金属表面処理加工・精密プレス加工、
金型設計・製作

創業 : 昭和33年8月

代表者 : 代表取締役社長 荒巻 芳幸

所在地 : 本社:神奈川県横浜市港北区綱島東

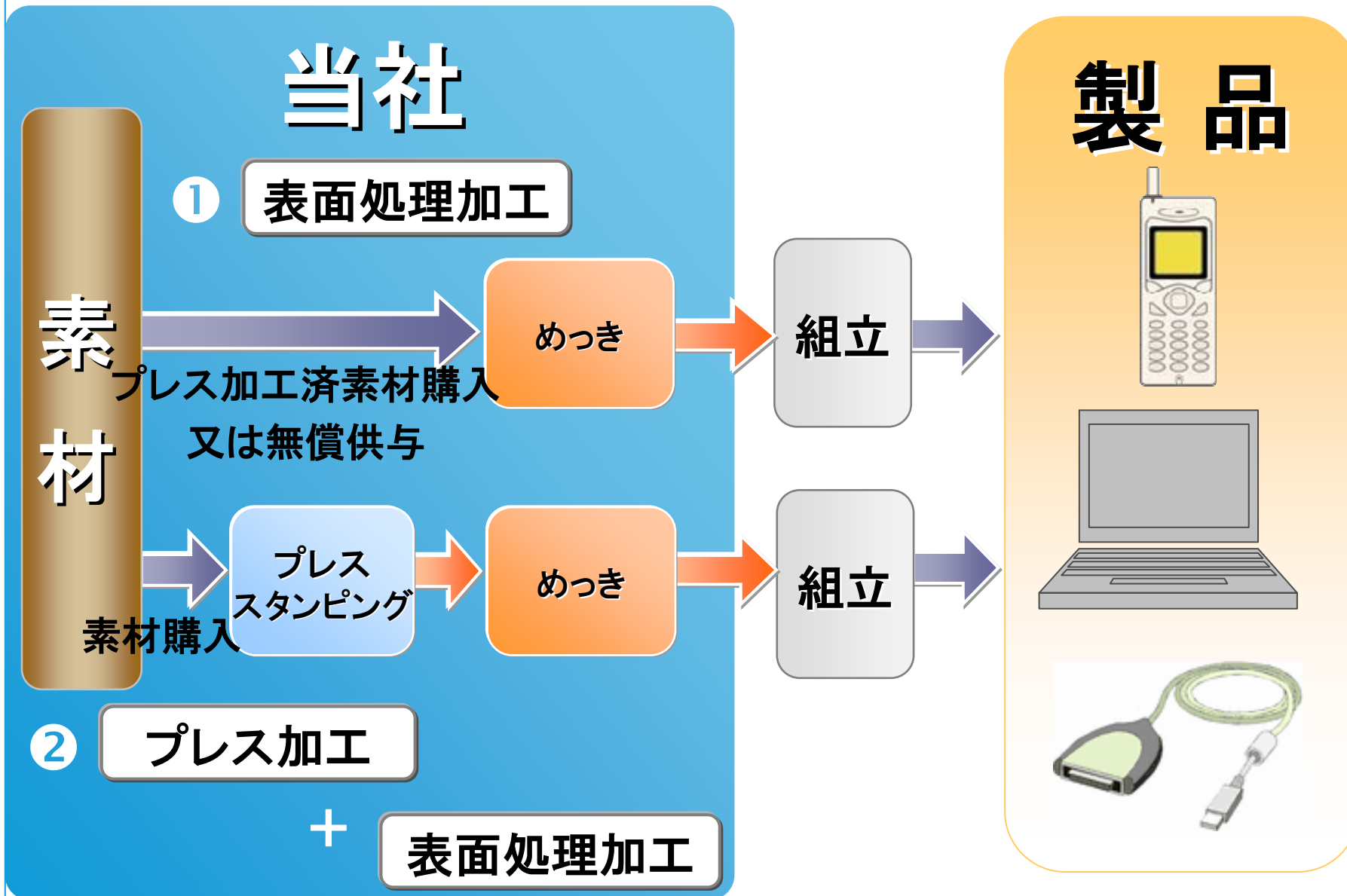
資本金 : 9億6,220万円(平成21年7月末現在)

売上高 : 68億62百万円(平成21年7月期)
(連 結)

事業拠点 : 日本・中国・フィリピン

従業員数 : 675名(平成21年7月末現在)
(連 結)

ビジネスモデル: ①表面処理加工 又は ②プレス加工+表面処理加工



国内外バランスのとれた当社の事業

▶ 表面処理加工・高付加価値処理のソリューション

国内

高付加価値処理
(ニッケルバリア加工)



国内電子部品メーカー

▶ 顧客の海外進出ニーズへのソリューション

海外

海外進出への対応力



日系電子部品メーカー



顧客囲い込み

現地電子部品メーカー

プレ ス 加 工 処 理

当社コア技術＝表面処理が求められる理由

■ 素材(金属)の性能を高める

通電性

電子部品には、半永久的に電気の流れが良いことが求められ、そのため「金めっき」が施される。

耐食性

金属にはサビ(酸化)が発生。サビには金が最も強いため、「金めっき」が、さらに性能向上の為に、「後処理(防錆処理)」が施される。

半田付性

電子部品をボードに実装する場合に、半田(鉛フリー)を活用。その際、ピンに「金めっき」または「半田めっき」されていると、スムーズかつ強固な装着が可能。

挿抜性

コネクタを接続する際にスムーズに挿入、抜去ができる方法として、「金めっき」及び「後処理」が最適。

多様な製品に利用される表面処理加工

■ 用途別

パソコン関係



デスクトップパソコン、
ノートパソコン、
他プリンター等の周辺機器

携帯端末



携帯電話の搭載品、
バッテリー関係の周辺機器

車載



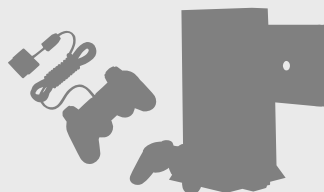
自動車の制御部分・
計器類及びエアバック等、
カーナビ装置等の機器類

カード



カード用のソケット・
メモリーカード等の記憶装置、
ICカード等の機器

ゲーム機器



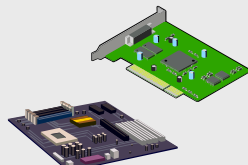
パチンコ等アミューズメント機器、
家庭用ゲーム機等

デジタル家電



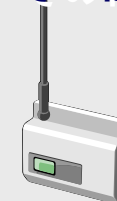
デジタルカメラ、
デジタルテレビ、DVD等

半導体設備



ICソケット、
バーイン用ソケット等

その他



基地局等の通信機
モバイル及び
上記に分類されない機器・装置等

付加価値を高める：山王のQCDS

Quality

競合他社より優れた品質での
量産化

Cost

金材料費の削減、仕様変更等の
VA(付加価値)提案でコスト対応

Delivery

受注から納品まで
一貫した生産管理システム開発

Service

高い技術力による
高付加価値化

金型設計能力向上研修は順調に実施中

▶ プレス・めっき一貫加工体制を新規顧客獲得の切り札に

▶ 金型設計能力(プレス・めっき一貫加工体制)は、当社技術・ノウハウの差別化に不可欠

▶ 国内の需要不足・単価下落を打開する方策として強化中



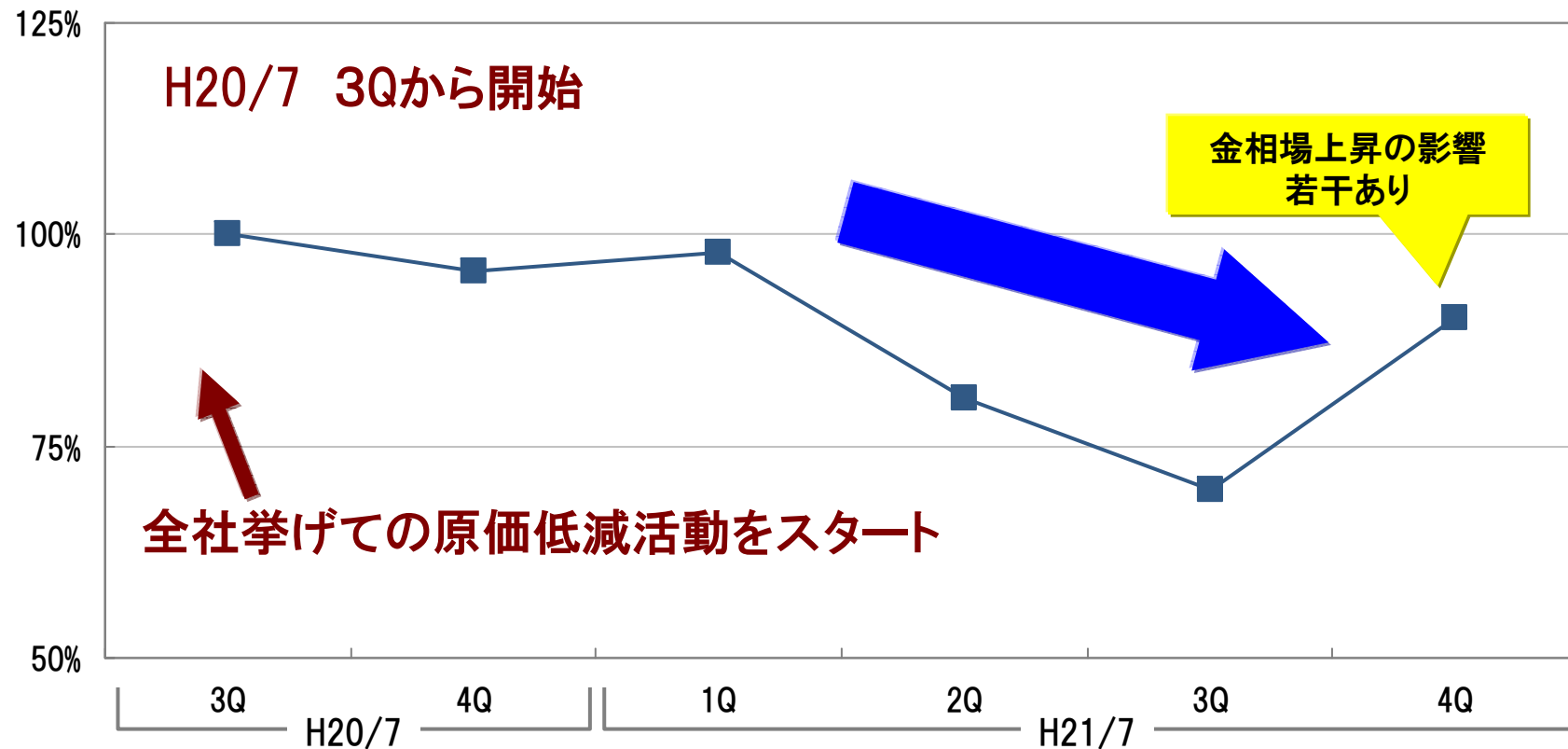
原価低減活動の状況

▶ (例)金消費量を効率化する工法を実現

▶ 金価格ほか長期的に高騰が想定される原材料の調達対策

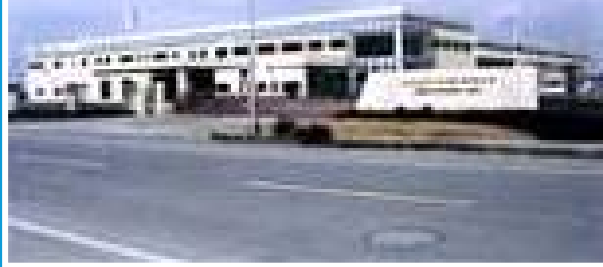
H20/7 3Q=100とする

材料費比率の推移 (国内・めっき)



国内外事業拠点

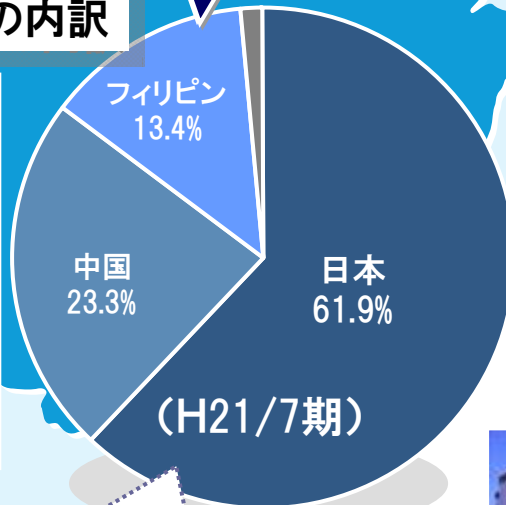
山王電子(中国・無錫)



海外売上高比率:38.2%
(平成21/7期)

地域別売上高の内訳

SPMC(フィリピン)



東北第二工場



東北工場



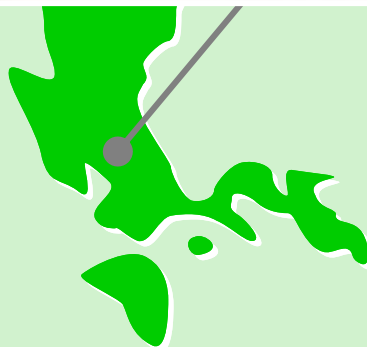
秦野工場



鈴川工場



本社・横浜工場



H21/7期
H20/7期
H19/7期

日本61.8% / 海外38.2%
日本61.9% / 海外38.1%
日本67.0% / 海外33.0%

本資料は、当社の事業及び業界動向について当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確かさが伴っています。既に知られた、もしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、平成21年9月29日現在において利用可能な情報に基づいて、当社により平成21年9月29日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

平成21年9月

株式会社山王

平成21年7月期 決算説明資料